

## 「教育と公共」研究部会（第29回）

日時：2021年10月15日（金）13:00～16:00

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：田嶋一・上野正道・浅井幸子・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員  
吉久知延所長・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）田嶋研究員：『『自由教育令』下における学務委員制度と教育の自由・自治問題－『月桂新誌』の分析を通して』（国民教育研究所・「自由民権運動と教育」研究会編『自由民権運動と教育』草土文化、1984）の検討

◆上記論文を「教育と公共」という視点から再検討したい

はじめに 「教育と公共」の問題が自由民権の理念と地域の現実に即して初発していた

第1節 月桂社グループの学務委員をめぐる論議

1. 学務委員選挙法
2. 教科及書目取捨ヲ特リ教員ニ任スルノ得失
3. 各校執事ヲシテ教育会議ニ参加セシムルノ得失

第2節 学務委員の実態

1. 執事から学務委員へ
2. 村社会と学務委員
3. 学務委員の直面した困難

第3節 学務委員制度のゆきづまりと教育の自由・自治問題

1. 論説「学務委員」
2. 自由教育論時期尚早論の台頭
3. 二つの干渉教育論と学務委員制度のゆくえ

おわりに その後の学務委員制度の変遷

（2）仲田研究員：英国の教育政策とアカデミー 40年にわたる新自由主義的教育改革

- ・「教育政策の実験の製造所」（Ball, 2017）
- ・英国（イングランド）を語る文脈
- ・「アカデミー」の制度
- ・アカデミー化の進行（Academisation）
- ・「アカデミー」の言説的布置
- ・マルチ・アカデミー・トラスト（Multi-Academies Trusts）
- ・あれから40年 新自由主義ガバナンス
- ・論理の転倒（Gove, 2012）
- ・「サッチャーのできの良い息子」

- ・ポスト人種主義のレイシズム
- ・新たな「規律主義」への転回
- ・測定への執着
- ・産業としての学校運営

・次回研究会 11月12日（金）13：00～